02　回答者の属性

（1）性別

図2-1-1 性別

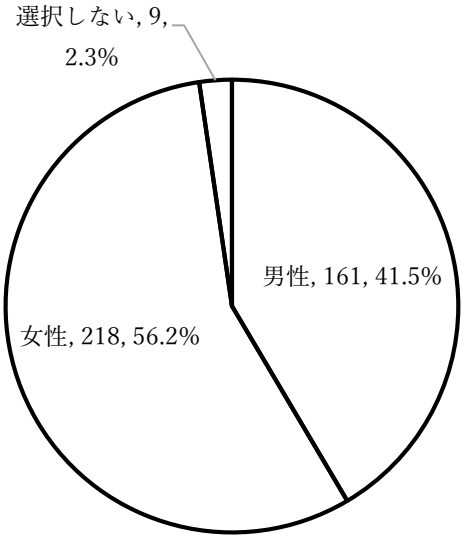


表2-1-1　性別（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	161	41.3	41.5	41.5
	女性	218	55.9	56.2	97.7
	選択しない	9	2.3	2.3	100.0
	合計	388	99.5	100.0	
欠損値	無回答	2	0.5		
合計		390	100.0		

回答者の性別は、「男性」が 161 件で 41.5%、「女性」が 218 件で 56.2%であり、「選択をしない」との回答は 9 件で 2.3%である。

市の人口における性比と比較する。令和 3 年 12 月の高砂市の推計人口は、男性で 41,988 人、女性で 44,900 人であり、比率はそれぞれ 48.3%、51.7%となる。回答者の比率は、人口推計の場合に対して女性の比率がやや大きい。

（2）年齢階級

図2-2-1 年齢階級

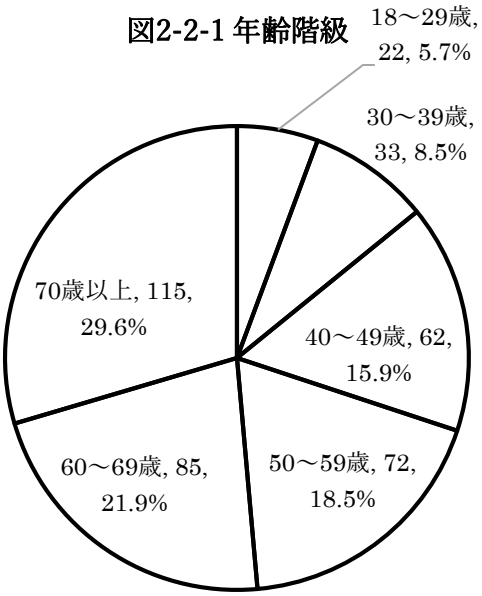


表2-2-1　年齢階級（S.A）　　国勢統計（令和2年）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	人数	パーセント
有効	18～29歳	22	5.6	5.7	5.7	9,976	13.6
	30～39歳	33	8.5	8.5	14.1	9,310	12.7
	40～49歳	62	15.9	15.9	30.1	12,564	17.1
	50～59歳	72	18.5	18.5	48.6	11,004	15.0
	60～69歳	85	21.8	21.9	70.4	10,985	15.0
	70歳以上	115	29.5	29.6	100.0	19,567	26.7
	合計	389	99.7	100.0		73,406	
欠損値	無回答	1	0.3				
合計		390	100.0				

次に年齢階級別では、最も多い件数は、「70 歳以上」で 115 件、29.6%、次いで「60～69 歳」で 85 件、21.9%となり、60 歳以上の回答者が半数を占める。以下、「50～59 歳」が 72 件、18.5%、「40～49 歳」が 62 件、15.9%、「30～39 歳」が 33 件、8.5%、「18～29 歳」が 22 件、5.7%である。

令和 2 年度の国勢統計（令和 2 年 10 月実施）の年齢階級別の人口比率と比較すると、50 歳以上の各階級では、回答者の比率の方がやや高く、39 歳以下の場合は、居住者の比率が 26.3%であるのに対し、回答者の比率は 14.1%であるなど、若年者の回答比率が低いことに注意が必要である。

（3）居住年数

図2-3-1 居住年数

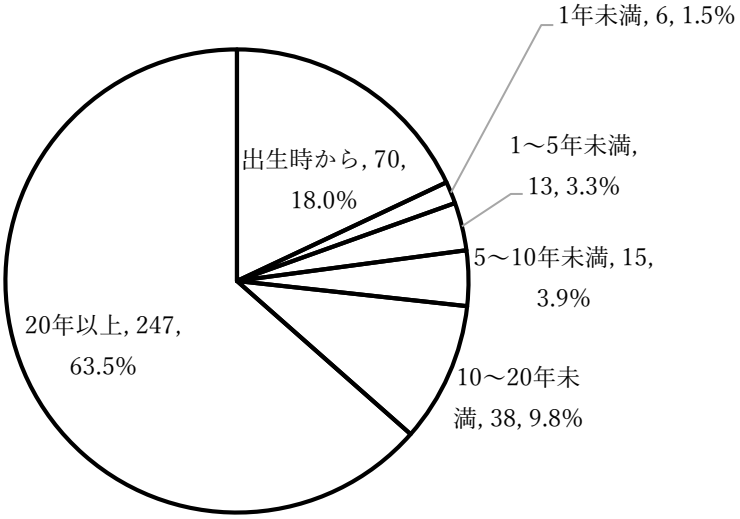


表2-3-1 居住年数（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	出生時から	70	17.9	18.0	18.0
	1年未満	6	1.5	1.5	19.5
	1～5年未満	13	3.3	3.3	22.9
	5～10年未満	15	3.8	3.9	26.7
	10～20年未満	38	9.7	9.8	36.5
	20年以上	247	63.3	63.5	100.0
	合計	389	99.7	100.0	
欠損値	無回答	1	0.3		
合計		390	100.0		

高砂市の居住年数については、「出生時から」が 70 件、18.0%、「20 年以上」が 247 件、63.5%と、8 割の回答者が長期の高砂市居住者である。10 年未満の回答の割合は 8.7%と少ない。年齢の高い回答者が多いことも理由として考えられる。年齢階級と居住年数のクロス集計を見ると、「20 年以上」という回答は「40～49 歳」で 45.2%、「50～59 歳」で 59.7%、「60～69 歳」で 82.4%、「70 歳以上」で 80.9%となっている。

ところで、平成 27 年度の国勢統計によると、高砂市に 20 年以上居住する比率は 37.4%、また出生時から居住をしているという比率は 13.1%で、合計では 50.5%となる。一方で 10 年未満の比率は 29.5%である。「20 年以上」居住している回答者の割合は、実際の居住者の比率よりも 26%高く、逆に「10 年未満」の回答者は、実際より 21%低い。アンケートの回答者は居住年数の長い方が多く、居住期間の短い住民の場合に、文化政策に関するアンケートへの回答が難しかった可能性があることには注意が必要となる。

（4）居住地

図2-4-1 居住地

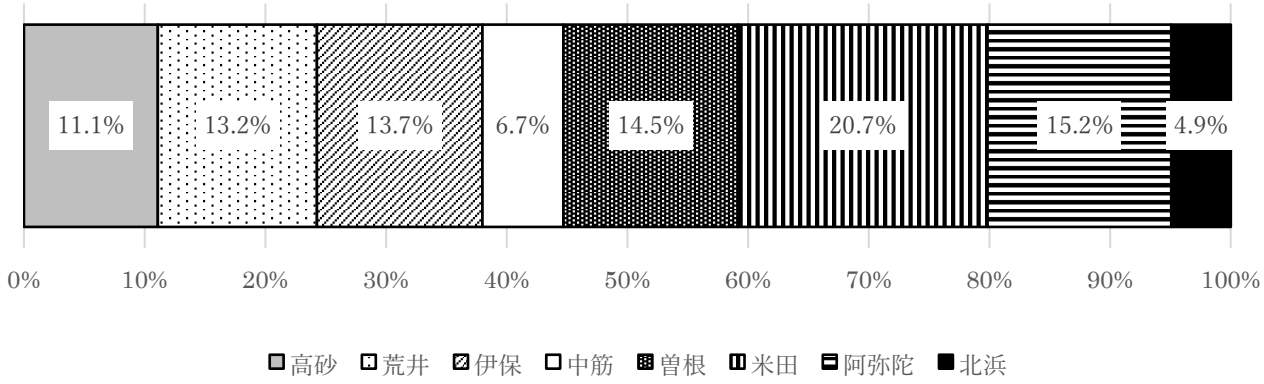


表2-4-1 居住地（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	高砂	43	11.0	11.1	11.1
	荒井	51	13.1	13.2	24.3
	伊保	53	13.6	13.7	38.0
	中筋	26	6.7	6.7	44.7
	曽根	56	14.4	14.5	59.2
	米田	80	20.5	20.7	79.8
	阿弥陀	59	15.1	15.2	95.1
	北浜	19	4.9	4.9	100.0
	合計	387	99.2	100.0	
欠損値	無回答	3	0.8		
合計		390	100.0		

地区別推計人口（令和 3 年 12 月）

		度数	パーセント
	高砂地区	8,007	9.0
	荒井地区	11,004	12.4
	伊保地区	18,733	21.1
	中筋地区	5,322	6.0
	曽根地区	11,437	12.9
	米田地区	18,175	20.4
	阿弥陀地区	11,377	12.8
	北浜地区	4,913	5.5
合計		88,968	100.0

居住地については、「米田」が 80 件、20.7%で最も多く、「阿弥陀」が 59 件、15.2%、「曽根」が 56 件、14.5%、「伊保」が 53 件、13.7%、「荒井」が 51 件、13.2%、「高砂」が 43 件、11.1%、「中筋」が 26 件、6.7%、「北浜」が 19 件、4.9%である。

令和 3 年 12 月の地区別人口（推計値）と比較する。伊保地区では実際の人口の比率よりも、回答者の比率が低いが、地区別では人口比率とほぼ同様の回答者の分布となっている。

（5）職業

図2-5-1 職業

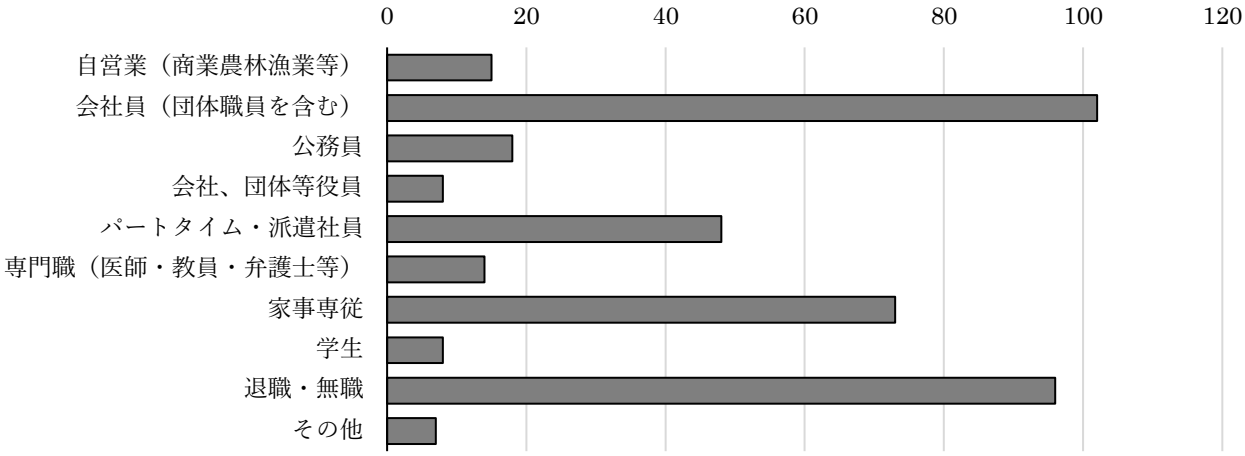


表2-5-1 職業（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自営業（商業農林漁業等）	15	3.8	3.9	3.9
	会社員（団体職員を含む）	102	26.2	26.2	30.1
	公務員	18	4.6	4.6	34.7
	会社、団体等役員	8	2.1	2.1	36.8
	パートタイム・派遣社員	48	12.3	12.3	49.1
	専門職（医師・教員・弁護士等）	14	3.6	3.6	52.7
	家事専従	73	18.7	18.8	71.5
	学生	8	2.1	2.1	73.5
	退職・無職	96	24.6	24.7	98.2
	その他	7	1.8	1.8	100.0
	合計	389	99.7	100.0	
欠損値	無回答	1	0.3		
合計		390	100.0		

職業については、「会社員（団体職員を含む）」が最も多く、102 件、26.2%である。「自営業」15 件、3.9%、「公務員」の 18 件、4.6%、「会社・団体役員」の 8 件、2.1%、「専門職（医師・教員・弁護士等）」の 14 件、3.6%を加えると、フルタイムで就業をしている割合は 4 割に達し、「パートタイム・派遣社員」の 12.3%と合算で過半数が、就労をしている。一方で、「退職・無職」が 96 件で 24.7%と 1/4 を占める。既に述べた通り、高齢者の回答の比率が高く、退職者が多い理由と思われる。

（6）文化団体への加入状況

図2-6-1 文化団体加入状況

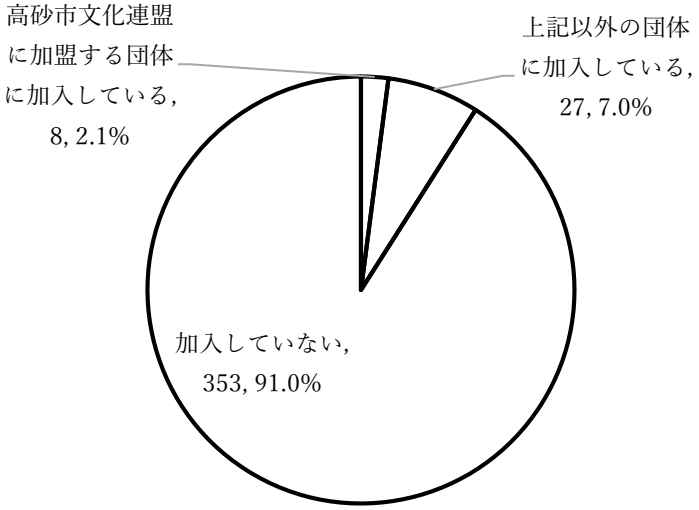


表2-6-1 文化芸術団体への加入状況（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	高砂市文化連盟に加盟する団体に加入している	8	2.1	2.1	2.1
	上記以外の団体に加入している	27	6.9	7.0	9.0
	加入していない	353	90.5	91.0	100.0
	合計	388	99.5	100.0	
欠損値	無回答	2	0.5		
合計		390	100.0		

文化芸術団体への加入状況では、高砂市文化連盟加盟の団体に加入している回答は、8 件、2.1%、それ以外の団体への加入が 27 件、7.0%である。加入をしていない人が 9 割を占めている。

平成 27 年度に実施した、高砂市「文化施策に関する市民アンケート」の調査（以下、報告書では『平成 27 年度調査』と称する）では、文化芸術団体の加入状況は 4.2%であったため、わずかであるが、比率は上昇している。

（7）高砂市と文化的雰囲気

図2-7-1 高砂市が文化的なまちと感じるか

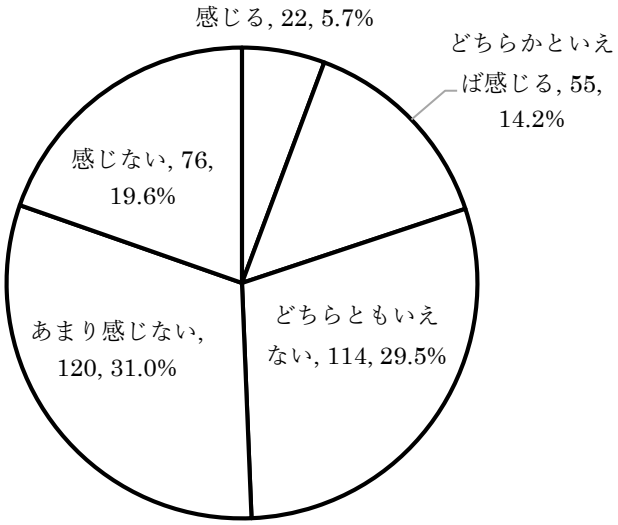
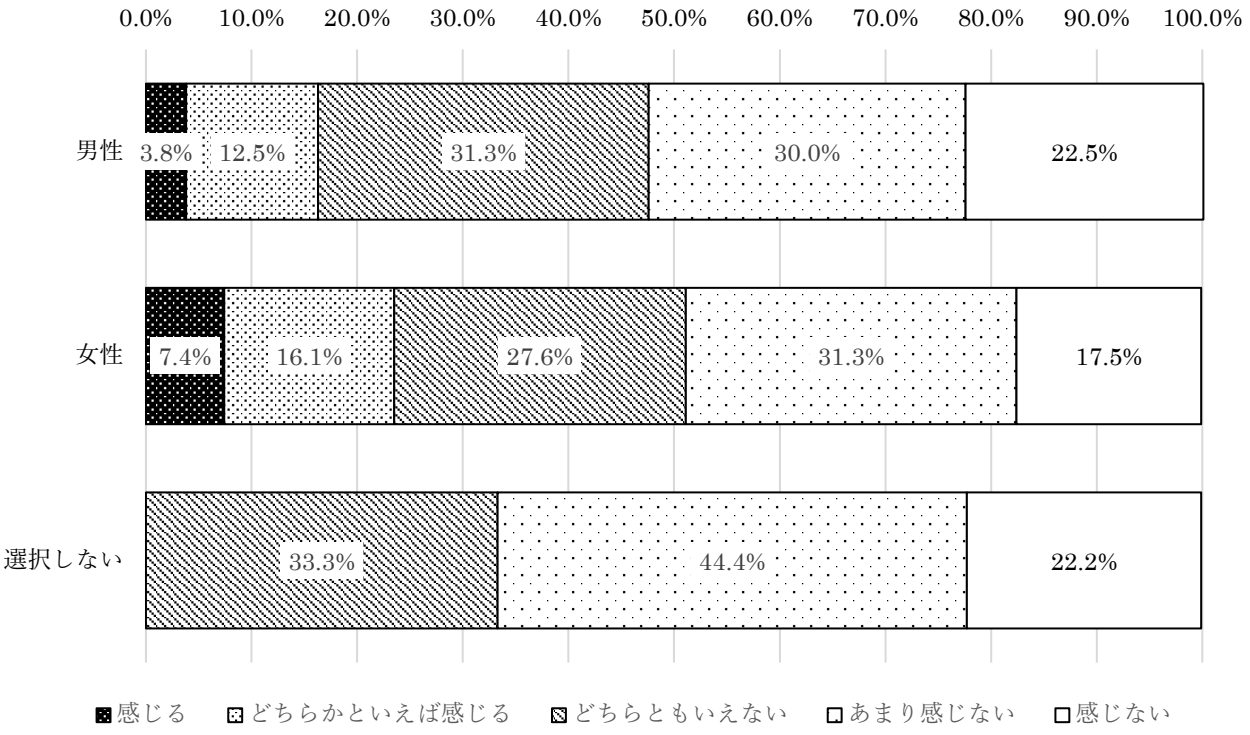


表2-7-1 高砂市が文化的なまちと感じるか（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	感じる	22	5.6	5.7	5.7
	どちらかといえば感じる	55	14.1	14.2	19.9
	どちらともいえない	114	29.2	29.5	49.4
	あまり感じない	120	30.8	31.0	80.4
	感じない	76	19.5	19.6	100.0
	合計	387	99.2	100.0	
欠損値	無回答	3	0.8		
合計		390	100.0		

高砂市が文化的なまちと感じるか、という設問に対して、「感じる」は 22 件、5.7%、「どちらかといえば感じる」が 55 件、14.2%、「どちらともいえない」が 114 件、29.5%、そして「あまり感じない」が 120 件、31.0%、「感じない」が 76 件、19.6%である。「あまり感じない」「感じない」という回答が 50.6%を占め、「感じる」「どちらかといえば感じる」の 19.9%を大幅に上回る。高砂市が文化的なまちと考える回答者は少ないと思われる。

図2-7-2 性別・高砂市が文化的なまちと感じるか※



※比率は少数点下 2 桁を四捨五入した数値であるため合計が 100.0%にならないこともある。

表2-7-2 高砂市が文化的なまちと感じるか と 性別 のクロス表

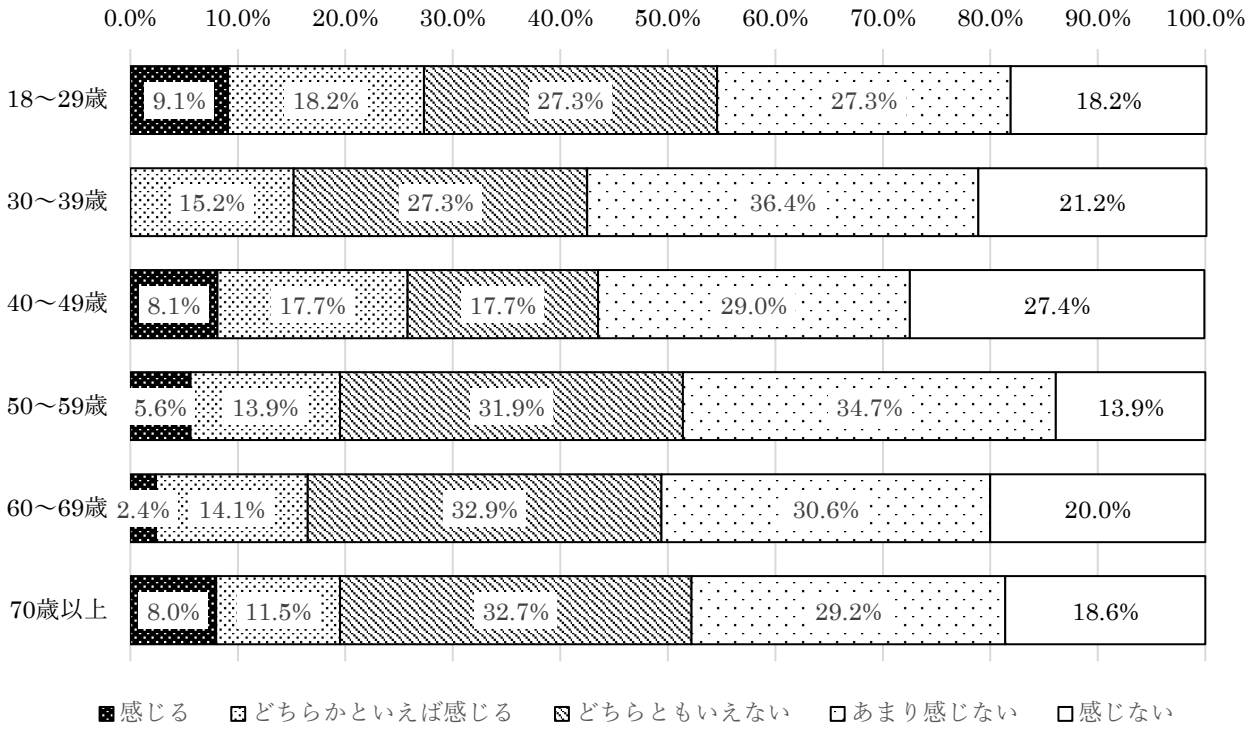
			性別			
			男性	女性	選択しない	合計
高砂市が文化的なまちと感じるか	感じる	度数	6	16	0	22
		%	3.8%	7.4%	0.0%	5.7%
	どちらかといえば感じる	度数	20	35	0	55
		%	12.5%	16.1%	0.0%	14.2%
	どちらともいえない	度数	50	60	3	113
		%	31.3%	27.6%	33.3%	29.3%
	あまり感じない	度数	48	68	4	120
		%	30.0%	31.3%	44.4%	31.1%
	感じない	度数	36	38	2	76
		%	22.5%	17.5%	22.2%	19.7%
合計		度数	160	217	9	386
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

クロス集計は2つ設問項目で重なる選択肢を回答した件数を示している。上記の表の見方であるが、「度数」は「男性」「女性」「選択しない」において、「高砂市が文化的なまちと感じるか」の回答別の回答者数であり、比率「%」は、性別の合計数に対して度数の占める構成比率を示している[1]。

[1] クロス集計表の比率については、行（横）方向に加算した合計に対する比率（行比率）と、列（縦）方向に加算した合計に対する比率（列比率）がある。クロス集計では、年齢など属性別の構成比率を計算することが多く、属性を表頭に並べ、選択肢を表側に並べることが多い。その場合は、列比率を比率

高砂市が文化的なまちであると「感じる」は、「男性」が3.8%、「女性」が7.4%であり、「女性」がやや多く、「どちらかといえば感じる」では、それぞれ12.5%、16.1%であるため、女性の方が文化的であると考えているように見える。また「どちらともいえない」はそれぞれで31.3%、27.6%で、「男性」が多く、「あまり感じない」は30.0%、31.3%と差はなく、「感じない」は22.5%、17.5%であり、「男性」がやや多い。傾向としては、「女性」の方が文化的なまちと考えているように思われるが、統計的な有意性を確かめるため、ピアソンのカイ2乗検定[2]を行ったところ、ピアソンのカイ2乗の値は7.05であり、有意確率は0.532であり、性別により、高砂市が文化的なまちと感じるかの回答には、有意な差は見られなかった。

図2-7-3 年齢階級別高砂市が文化的なまちと感じるか



として表示する。ただしページ幅により、表側に属性を並べるケースがある。また帯グラフでの比較は属性別で、選択肢毎の構成比率を示すことになる。なお両項目の無回答の件数はクロス集計表に含まれないため、それぞれの合計値が単純集計の表の値と一致しないこともある。

[2] ピアソン（Pearson）のカイ２乗検定は、２つの質的変数の独立性を検定するための統計手法で、クロス集計表の統計的検定としてよく利用される。標本サイズが十分に大きいときにはカイ２乗検定統計量の分布が正規分布に近似できるという性質による。なお質的変数が３つ以上の場合（例えば縦がｍ行、横がｎ列）のクロス集計表は、自由度を（ｍ―1）×（ｎ―1）のカイ二乗分布を用いて検定を行う。ただし、それぞれのセルに含まれる回答数が少ない場合、信頼度が低下することもある。検定では、ピアソンのカイ２乗の値と、その有意確率により判断をする。有意確率が十分に低い場合は、性別や年齢階級などの属性によって、比率に差があることを示し、このことを有意差があるという。有意確率は帰無仮説が統計的に成立する確率であり、カイ２乗分析では通常、差が生じないことを帰無仮説とする。

表2-7-3 高砂市が文化的なまちと感じるか と 年齢階級 のクロス表

			年齢階級						
			18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
高砂市が文化的なまちと感じるか	感じる	度数	2	0	5	4	2	9	22
		%	9.1%	0.0%	8.1%	5.6%	2.4%	8.0%	5.7%
	どちらかといえば感じる	度数	4	5	11	10	12	13	55
		%	18.2%	15.2%	17.7%	13.9%	14.1%	11.5%	14.2%
	どちらともいえない	度数	6	9	11	23	28	37	114
		%	27.3%	27.3%	17.7%	31.9%	32.9%	32.7%	29.5%
	あまり感じない	度数	6	12	18	25	26	33	120
		%	27.3%	36.4%	29.0%	34.7%	30.6%	29.2%	31.0%
	感じない	度数	4	7	17	10	17	21	76
		%	18.2%	21.2%	27.4%	13.9%	20.0%	18.6%	19.6%
合計		度数	22	33	62	72	85	113	387
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢階級と高砂市が文化的なまちと感じるか、とのクロス集計の結果を示す。

「感じる」の件数が少ないため、少数の回答者の変動で、比率の変化が大きくなるため、「感じる」「どちらかといえば感じる」とを合算して検討する。「18～29 歳」では 27.3%となり最も高く、次いで「40～49 歳」で 25.8%、「50～59 歳」で 19.5%、「70 歳以上」で 19.5%、「60～69 歳」で 16.5%、そして「30～39 歳」で 15.2%となっている。また、「あまり感じない」「感じない」を合算して比較すると、「18～29 歳」で 45.5%とやや低いものの、「30～39 歳」では 57.6%、「40～49 歳」では 56.4%、「50～59 歳」では 48.6%、「60～69 歳」では 50.6%、そして「70 歳以上」では 47.8%となっている。30 歳から 60 歳までの、いわゆる社会の最前線の年齢層で、高砂市が文化的なまちとの評価が低いように思われる。ただし、比率の差は小さく、ピアソンのカイ 2 乗検定では、カイ 2 乗の値は 15.11 であり、有意確率は 0.770 であるため、年齢階級によって回答に有意な差は見られなかった。

(8) 高砂市の自慢したい文化・場所・人・もの

表 2-8-1 高砂市の自慢したい文化・場所・人・もの（M.A）

高砂市の自慢したい文化・場所・人・もの	度数	パーセント	ケースのパーセント
石の宝殿/生石神社	112	17.0%	46.9%
秋祭り/祭り	109	16.6%	45.6%
高御位山	56	8.5%	23.4%
万灯祭	49	7.4%	20.5%
その他名所旧跡	35	5.3%	14.6%
向島海浜公園	32	4.9%	13.4%
鹿島神社	28	4.3%	11.7%
にくてん	24	3.6%	10.0%
高砂神社	18	2.7%	7.5%
工楽松右衛門旧宅	16	2.4%	6.7%
曽根天満宮	13	2.0%	5.4%
かしわもち	12	1.8%	5.0%
美濃部達吉	12	1.8%	5.0%
高砂町の町並み	11	1.7%	4.6%
古い町並み・昔の町並み	10	1.5%	4.2%
肯定的意見	9	1.4%	3.8%
旧入江家住宅	8	1.2%	3.3%
その他の食品	8	1.2%	3.3%
謡曲/謡曲「高砂」/尉と姥	8	1.2%	3.3%
焼あなご	7	1.1%	2.9%
海・加古川などの風景・地理	7	1.1%	2.9%
工楽松右衛門	7	1.1%	2.9%
ない	7	1.1%	2.9%
高砂市図書館など公的施設	6	0.9%	2.5%
その他風景	6	0.9%	2.5%
帆布	5	0.8%	2.1%
ぼっくりん	5	0.8%	2.1%
否定的意見	5	0.8%	2.1%
竜山石	4	0.6%	1.7%
その他の特徴	4	0.6%	1.7%
ナイトファンタジーイリュージョン	3	0.5%	1.3%
その他催事・祭事	3	0.5%	1.3%
客観的事実・個人事情	3	0.5%	1.3%
ブライダル都市	2	0.3%	0.8%
子育てのしやすさ	2	0.3%	0.8%
災害が少ない	2	0.3%	0.8%
例示のもの全て	2	0.3%	0.8%
その他	2	0.3%	0.8%
相生の松	1	0.2%	0.4%
工場夜景	1	0.2%	0.4%
地蔵盆	1	0.2%	0.4%
宮本武蔵	1	0.2%	0.4%
その他人物	1	0.2%	0.4%
自然の豊かさ	1	0.2%	0.4%
合計	658	100.0%	275.3%

高砂市の自慢したい文化・場所・人・ものを、複数回答で、自由記述をしていただいた結果を表に示す。例示として、下記を挙げており、複数の単語を記載される方が多くを占めたが、文章で記載される方もあり、その場合は、文章を自慢できるものに区分した上で、コード化した。

【例】 ■名所旧跡：旧入江家住宅、石の宝殿、工楽松右衛門旧宅
■名物：にくてん、かしわもち ■風景：高砂町の町並み、高御位山、向島海浜公園
■催事・祭事：万灯祭、秋まつり ■人物：工楽松右衛門、美濃部達吉

文書には、自慢できることだけではなく、一般的な議論なども記載されており、それらについても、文節で分け、「肯定的意見」「否定的意見」「客観的事実・個人事情」「その他意見」にコード化した。

表 2-8-2 区分別の件数

	度数	パーセント
名所・旧跡	237	36.0%
名物	60	9.1%
風景	123	18.7%
催事・祭事	165	25.1%
人物	21	3.2%
特徴・らしさ	24	3.6%
各種意見	17	2.6%
その他	11	1.7%
合計	658	100.0%

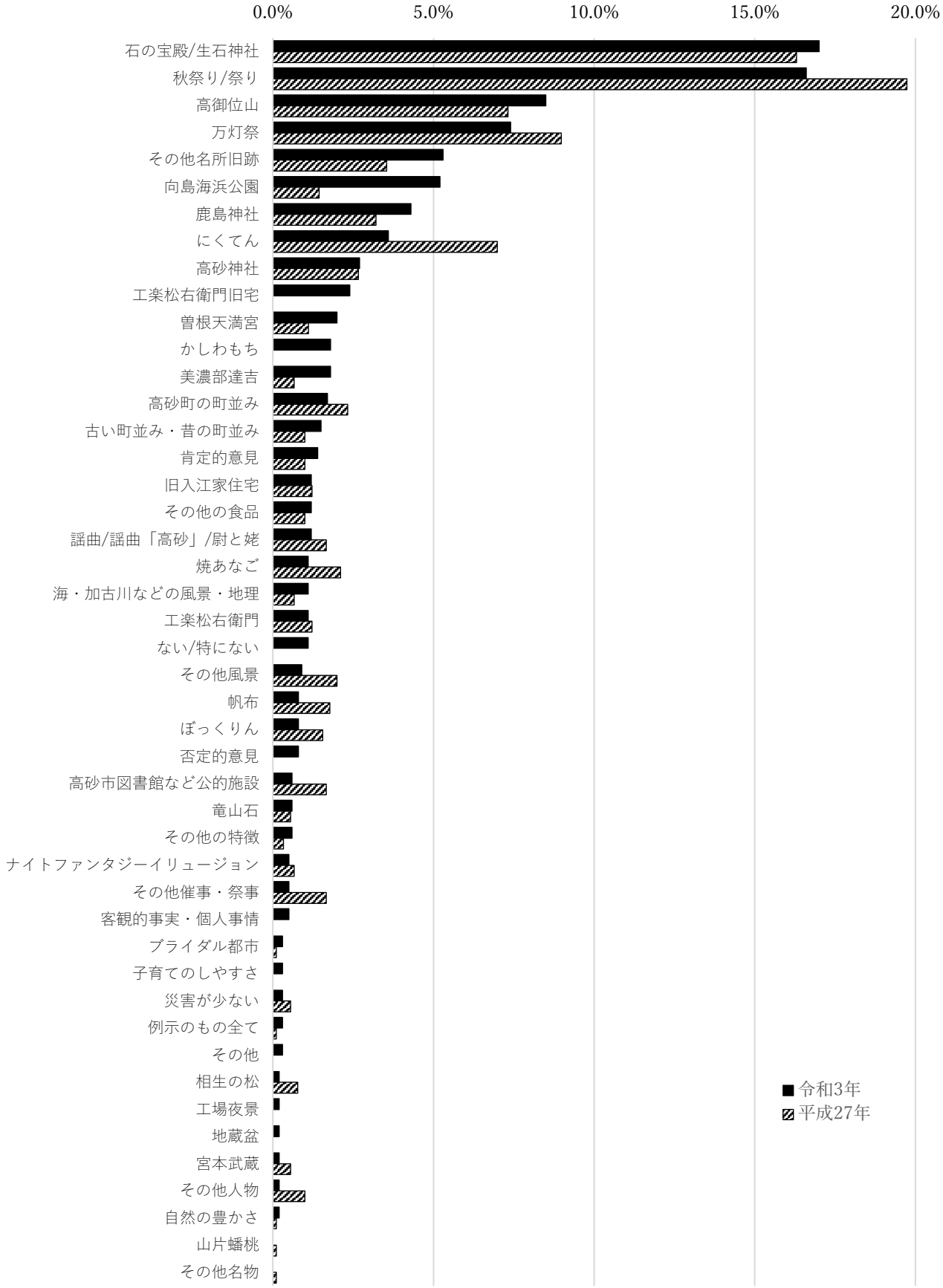
最も多い回答は、「石の宝殿/生石神社」で 112 件、17.0%、「ケースのパーセント」で 46.9%を占め、回答した方の半数近くが、これを含めた。次いで、「秋祭り/祭り」がそれぞれ、109 件、16.6%、45.6%、「高御位山」が 56 件、8.5%、23.4%、「万灯祭」が 49 件、7.4%、20.5%となっている。さらに、「その他の名所旧跡」は 35 件、5.3%、14.6%で続く。その他の内容で具体的な名称としては、市ノ池公園、十輪寺、旧花井家、などが多かった。

さらに、「向島海浜公園」が 32 件、4.9%、13.4%、「鹿島神社」が 28 件、4.3%、11.7%、「にくてん」が 24 件、3.6%、10.0%、「高砂神社」が 18 件、2.7%、7.5%、「工楽松右衛門旧宅」16 件、2.4%、6.7%、「曽根天満宮」13 件、2.0%、5.4%が続く。多くが、名所や旧跡等である。表 2-8-2 に区分別の件数、比率を示したが、「名所・旧跡」が 237 件で 36.0%を占めている。

名物は「にくてん」に続き、「かしわもち」が 12 件、1.8%、5.0%となっている。意見には「名物に「かしわもち」が有るとは初めて知りました！その様なグルメなどが有ればもっと発信してほしいと思います」と情報発信の不足を嘆く意見もあった。そして「高砂町の町並み」が 11 件、1.7%、4.6%、「古い町並み・昔の町並み」が 10 件、1.5%、4.2%と町並みを挙げる意見も多い。町並みを含む「風景」は 123 件、18.7%である。人物では、「美濃部達吉」が 12 件、1.8%、5.0%で唯一上位に含まれる。

市の政策に関連する肯定的意見は、「子どもの医療費が無料で保育園の数もたくさんあり子育てしやすい市」「高砂駅周辺の古民家の最近の活用がすばらしい」「ブライダル都市高砂として子供～大人迄住んでみたい街活気あふれる教育」などがあった。逆に、否定的な意見としては「いろいろと自慢したい物が多くあるがどれもアピールが弱く、しられていない」「日本全国出張に行きますが聞かれても自慢できることがなくいつも困ります」などがあった。

図2-8-1 高砂市の自慢したい文化・場所・人・もの（令和3年度・平成27年度）



『平成 27 年度調査』との比較を行う。なお、平成 27 年度については、令和 3 年度の項目に再編し、再度集計しており、再編ができなかった項目を除いている。

上位の内容は、平成 27 年度も令和 3 年度の結果とほぼ共通をしており、「秋まつり」「石の宝殿」「万灯祭」「高御位山」順となる。祭事・催事である、「秋まつり」や「万灯祭」では、平成 27 年度が、令和 3 年度よりも、回答数の比率が高く、新型コロナウィルス感染症により、これら事業が中止や延期となったことも影響をしているであろう。平成 27 年度の調査に名前が登場した「高砂ふらっ灯バル」「朝ごぱん市」などは、令和 3 年度の調査には登場しない。平成 27 年度に記載された内容は、令和 3 年度のものよりも、多様性に富んでいた感がある。